

# 院内感染対策委員会

## 《概要》

近年、社会問題となっている院内感染症の発生および伝播を防ぐ目的で組織され、院内感染対策委員会、院内感染対策チーム(ICT)院内感染対策ワーキンググループから成り立っている。主な実働部隊であるワーキンググループのメンバーは、医師(リンクドクター)・看護師(リンクナース)・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師で他職種により構成され、感染防止に関するさまざまな活動を行っている。

活動方針は毎月第1水曜日に行う院内感染対策チームで決定し、第3水曜日に開催する院内感染対策ワーキンググループ会議で議論したうえで、最終的に第4月曜日の院内感染対策委員会で報告し、承認を得ている。実際の感染対策活動は、ワーキンググループの中を更に小グループに分け、細かい対策を行っている。

ICT ラウンドは毎週金曜日に抗菌薬の適正使用に対する介入を目的として行っている。

教育活動としては、年3つのテーマで院内感染対策研修会を実施、中途採用者への研修も実施している。

日本環境感染学会総会には平成22年度は当院から4代の演題を発表した。

サーベイランスの関しては、耐性菌サーベイランス、中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス(BSI)を行いその結果をフィードバックしている。

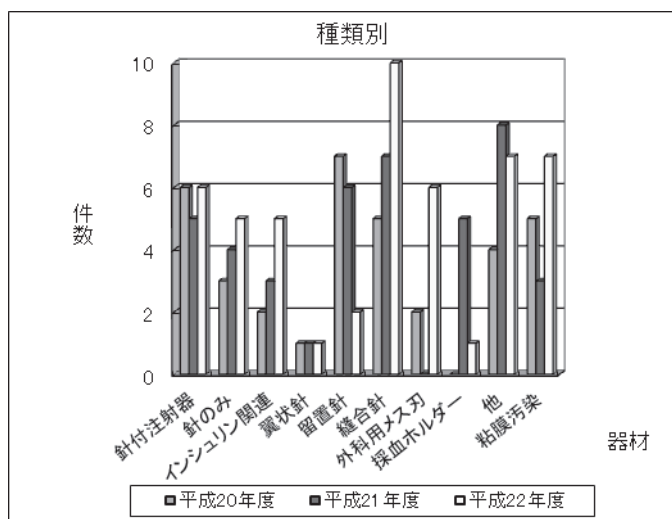
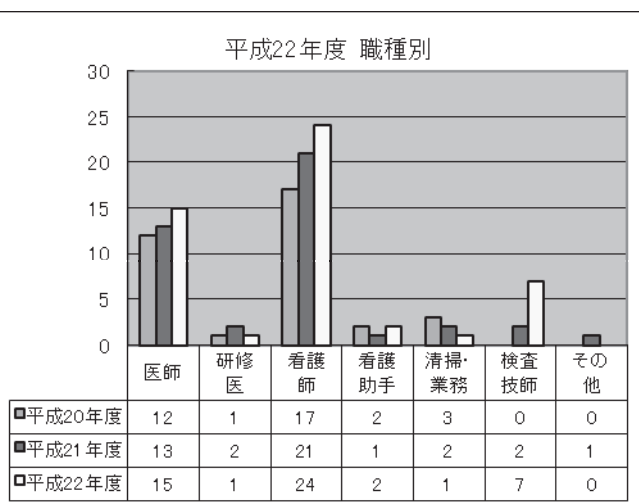
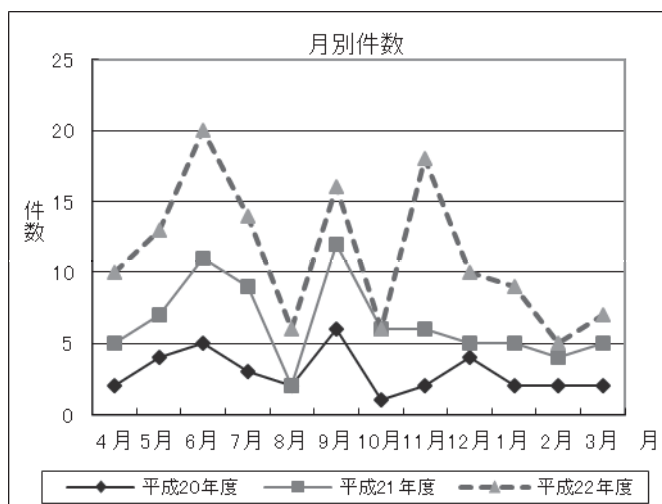
## 《実績》

平成 22 年度 院内感染対策ワーキンググループの活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	SSI BSI UTI 針刺し、粘膜汚染	山村 Dr 畑中 Dr 森 松浦 南 川西
予防基準	マニュアル作成	貝原 上嶋 川西
医療材料	新規医療材料の検討	川西
教育	職員に対する教育活動（院内感染対策研修会、ミニ勉強会、手洗い実践・チェック）	和泉 Dr 平塚 Dr 清水 須合 神田 木浪 中平（放科） 川西
清掃関係	針落下の状況調査、清掃ミーティング ガラス類分別収集	川西
耐性菌、抗生剤	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス	玉置 Dr 須合 泉原 北島 川西
広報	Infection Control News の発行	北原 Dr 松本 Dr 藤原 船戸 長岡 田井 坂口 中平 川西

◆サーベイランス

《針刺し・粘膜汚染 月別件数》



【評価】

H22年度はH21年度に比べ粘膜汚染も含めると8件の増加が見られた。粘膜汚染では急変時の大量出血による汚染が一度に4件報告があった。職種別では看護師が多くなっており、割合(件数/看護師総数:H22.9)に換算すると7.2%で昨年より1%増加がみられた。医師は同様に割合計算すると15.5%であり、こちらも昨年度と比較すると2%の増加がみられた。全報告数に対する割合では、看護師からの報告が48%医師からの報告も48%であった。今年度は特に検査技師の針刺しが多くみられ割合(件数/検査技師総数:H22.9)に換算では28%になった。

どの職種にも共通する傾向として同じ人が針刺しされることが多く、医師・看護師・検査技師それぞれ1~3名みられた。

器材別では縫合針による針刺し(10件)が昨年(7件)同様多く報告され、次に外科用メス刃(6件)といずれも医師の処置に関するものであった。また、手袋装着必要場面での装着率は84%であり昨年(80%)を上回る結果であった。

H21年度は防止対策として留置針の変更を行ったが、今年度は留置針での針刺しは2件であり、1件は旧留置針でありもう1件は安全装置を作動させる前の針刺しであった。変更による効果は見られていると考える。

【BSIサーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2010年4月～2011年3月	95,780	8,836	0.09	4.9

◆教育

院外講師を招いての講習会

講師：藤田直久先生 京都府立医科大学 感染制御・検査医学 准教授

日時：10月4日（月）17時30分から

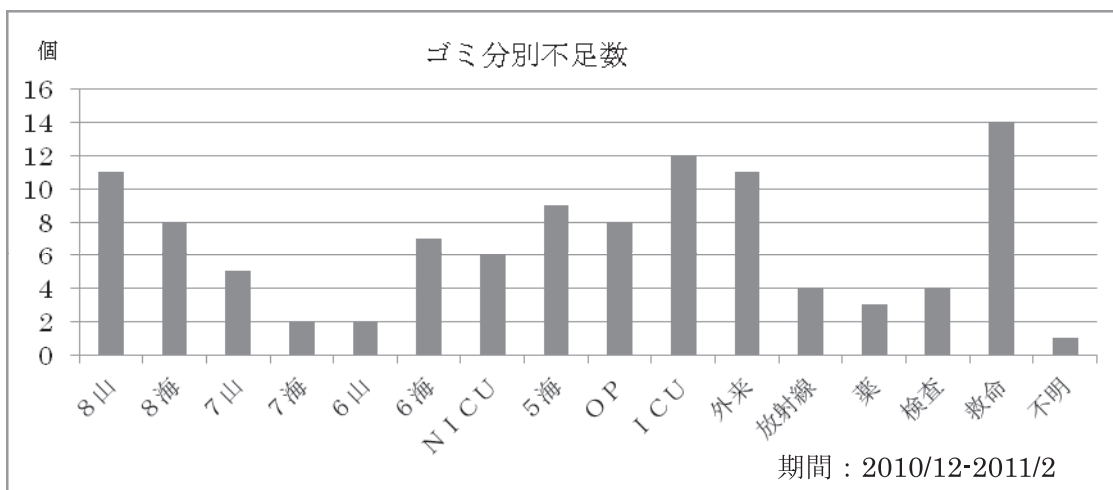
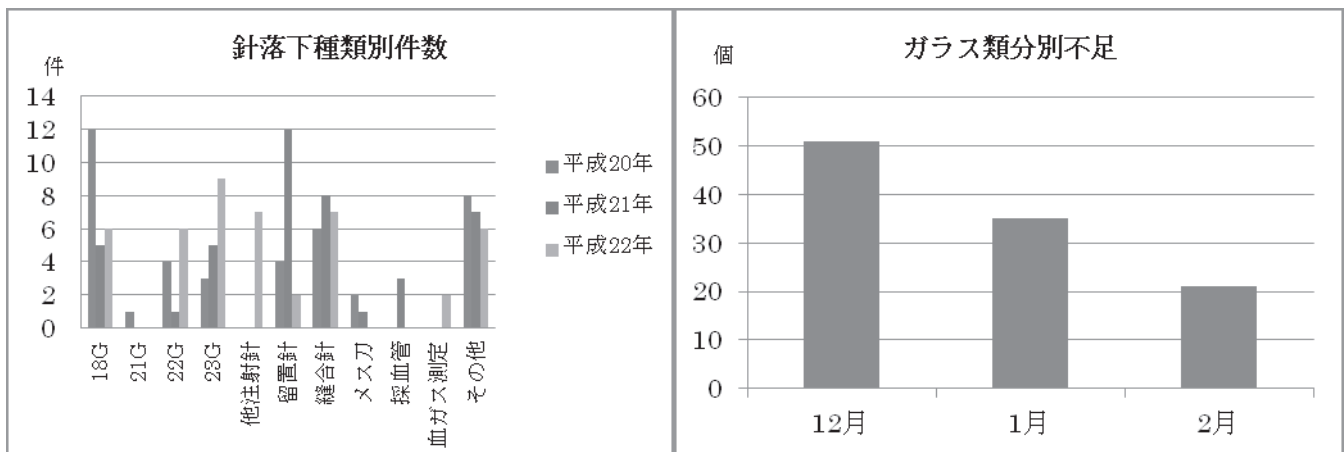
ビデオ研修：10/13（水）10/20（水）11/17（水）11/29（月）

内容：「誰にでもできる抗菌薬適正使用」

手指衛生					出席率 60%
8/2（月）	8/10（火）	8/13（金）	8/18（水）	8/25（水）	
誰にでもできる抗菌薬適正使用					出席率 53%
10/4（月）	10/13（水）	10/20（水）	11/17（水）	11/29（月）	
アウトブレイク					出席率 57%
1/19（水）	1/31（月）	2/4（金）	2/16（水）	2/22（火）	

◆清掃関係

針落下報告 種類別件数



## 【評価】

針落下は昨年度と比較すると同じ件数であるが、23G 針の件数が増加している。新しい針捨てボックスを導入したが、設置場所など再度検討必要があると考えられる。

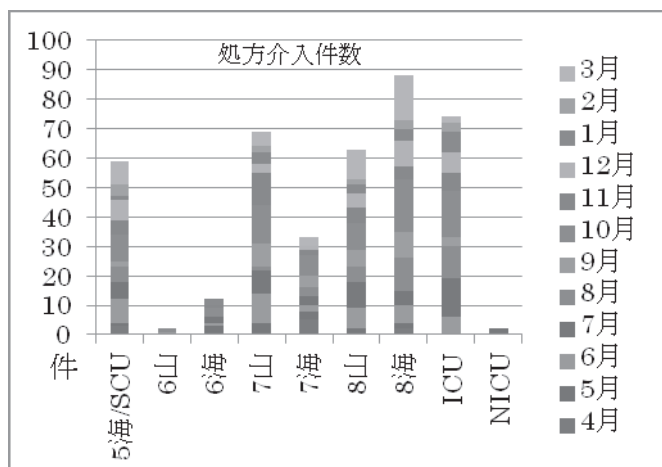
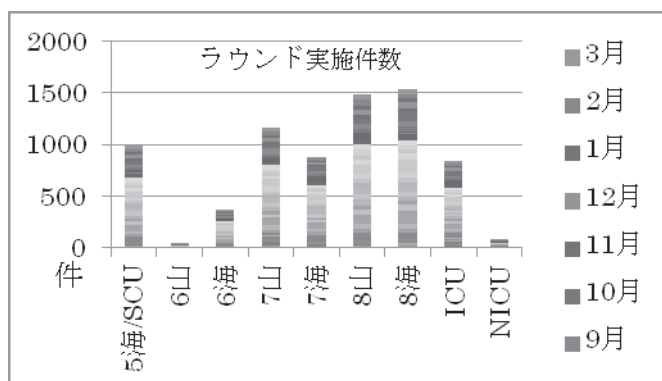
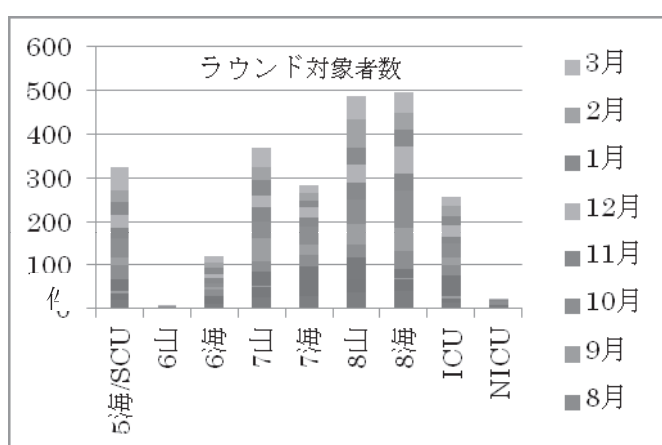
ガラス類のゴミの中にガラス類以外のゴミが多く混入されていたことが発見された。そこで一時ガラス類の分別チェックをおこなった。

結果、ガラス類を多く使用する部署に分別不足が多く見られた。しかし、日々チェックし、分別できていない現状を各部署に直接報告することで激減した。今後もチェックは必要であるとする。

## ◆ 広報

インフェクションコントロールの発行

## ◆ ICT ラウンド件数



## ICT ラウンドメンバー

医師、薬剤師、検査技師、看護師

## ラウンド日時

毎週金曜日（もしくは木曜日）

・14時30分～ラウンド実施対象者の選定

15時～ラウンド実施

ラウンド実施対象部署へ

情報収集

カルテ記載

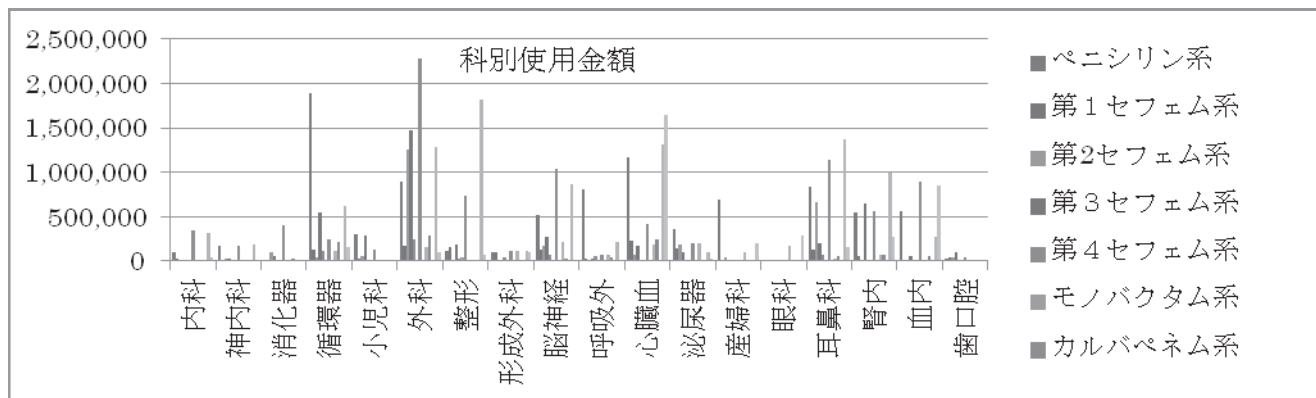
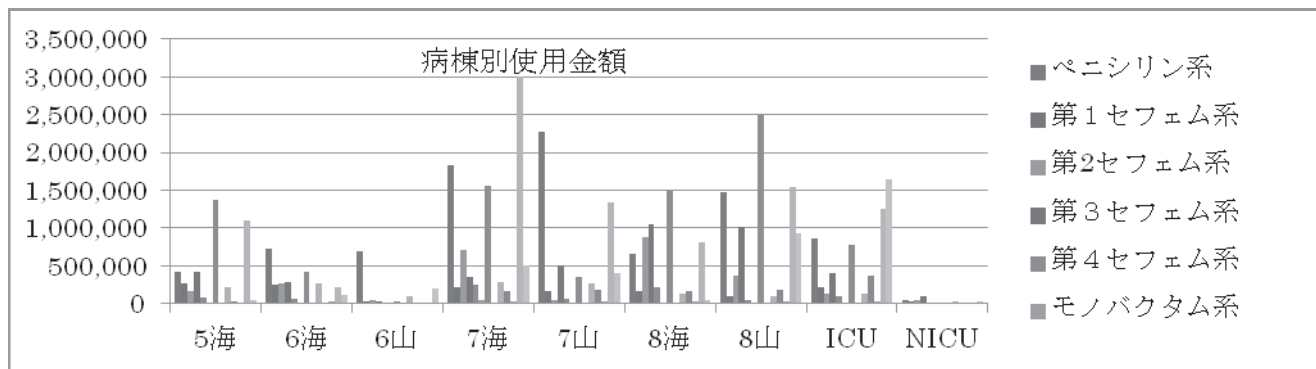
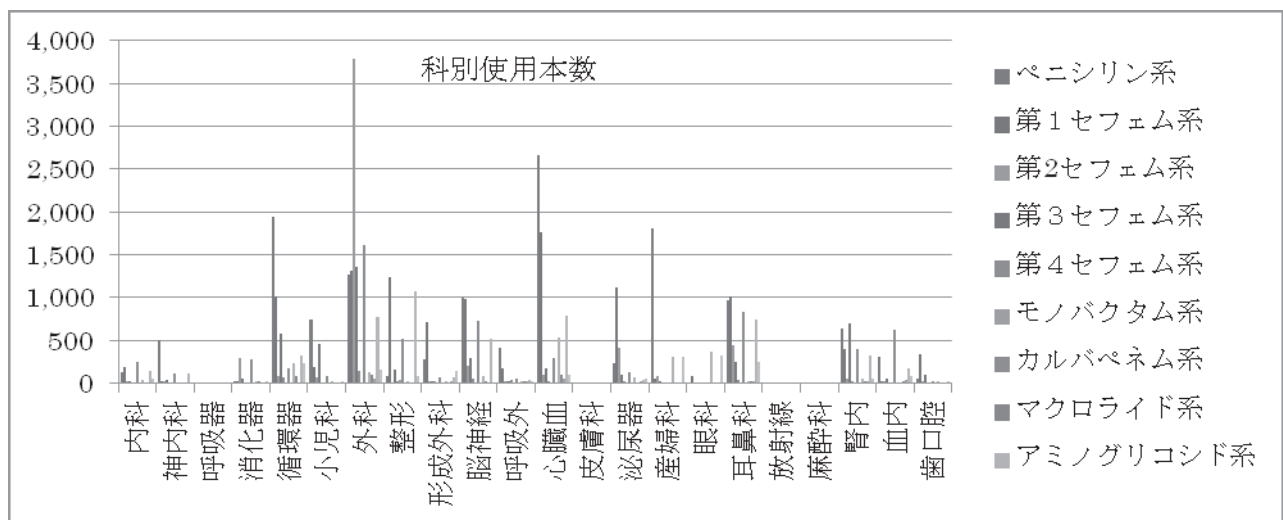
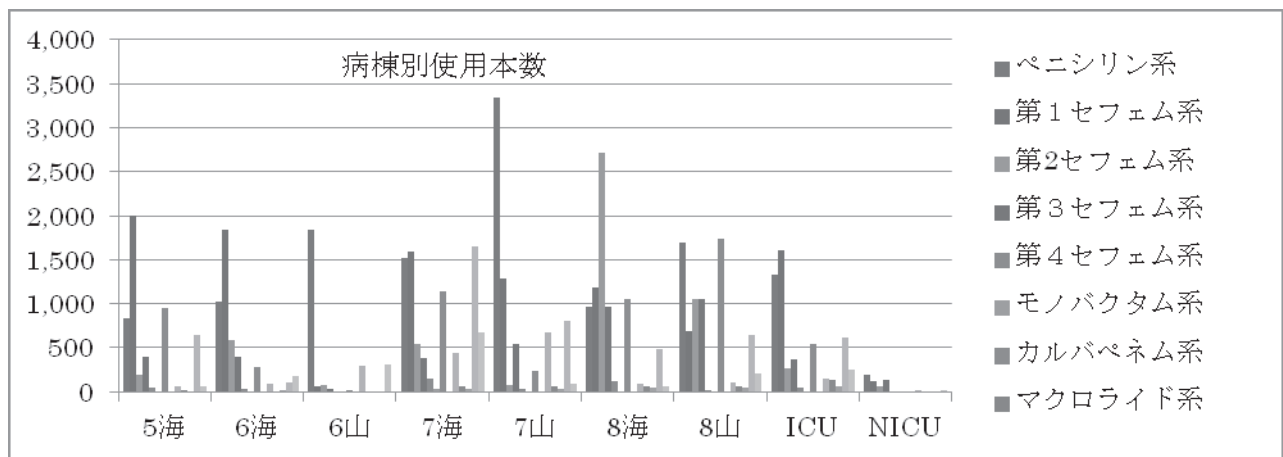
・16時～ラウンドまとめ報告書作成

## ラウンド報告

・各部署へ報告書の提出

・毎月ワーキンググループ、ICT、院内感染対策委員会での報告

◆抗菌薬について



## 《業績》

### (1) 学会研究会報告 (2010.4～2011.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	輸液調整マニュアル作成への取り組み	長尾今日子 中村真澄 高木良子 川西史子	第 26 回日本環境感染学会	2011.2.18
2	NICU における MRSA 定着に影響を及ぼす 要因について	川西史子	第 26 回日本環境感染学会	2011.2.18
3	抗菌薬適正使用への薬剤管理指導支援シ ステムの活用	泉原里絵 北島正大 坂口雅未 松本朝美 川西史子 森朝紀文 玉置俊治	第 26 回日本環境感染学会	2.11.2.19
4	中途採用者への感染予防教育の取り組み	神田麻紀子 布野知恵美 木浪加世 松浦信二 川西史子	第 26 回日本環境感染学会	2011.2.19